

サステナビリティハイライト

低炭素社会への貢献

建設業だからこそ、できること、すべきこと

環境問題の解決に貢献する技術を開発し、新たな価値を創造することを、安藤ハザマは重視し、技術革新を推進してきました。同時に、自らの事業の環境配慮を徹底することも、私たちものづくり企業のCSRの基本ともいえる重要な責務です。このような考えに基づき、安藤ハザマは、社会の低炭素化に貢献するものづくりと自社の低炭素化・環境負荷の低減とを両輪に取り組みを続けており、その成果は着実に実を結びつつあります。

低炭素技術の実証の場でもある

TTCつくば

2016年に竣工した安藤ハザマの研修用宿泊施設「TTCつくば」では、低炭素型コンクリートや省電力型施設をはじめとする先進の低炭素技術が積極的に採用され、その実証的な成果がお客様への提案に活かされています。

CASE
04

SUSTAINABILITY HIGHLIGHT



13

気候変動に
具体的な対策を

対策が急がれる、気候変動問題

各地で異常気象や自然災害の激甚化が問題となる現在、社会の低炭素化などを通じた気候変動の緩和と抑制は世界共通の課題であり、国や組織を超えた取り組みが求められています。国連も2015年に採択した「パリ協定」を通じ、地球の気温上昇を産業革命時点より2度未満とする「2℃シナリオ」を提唱し、削減目標の設定など各国の取り組み推進を図っています。しかし依然として気温は上昇傾向にあり、一層の取り組みが求められています。

豊かな地球を

ものづくりの低炭素化例

ローカーボンハイパフォーマンスコンクリート(LHC®)の積極活用

LHC®は、一般的な構造物で要求される耐久性能などを保持しつつ普通ポルトランドセメントを用いたコンクリートに比べCO₂排出量を約45%減少させた、低炭素型コンクリートです。

安藤ハザマは、ひび割れ抵抗性にも優れ一般的なコンクリートと同様の施工が可能なLHC®の提案を積極的に行っています。2017年10月に湛水式を迎えた厚幌ダムもそのひとつで、堤内水路の閉塞工に採用しました。水とセメントが反応し発熱する水和熱の対策としても有効なLHC®は、産業副産物の原料としても注目されており、今後さらなる活用が期待されます。



厚幌ダム



LHC®打設状況(厚幌ダム下流面)

多面的に進む、 安藤ハザマの低炭素戦略

安藤ハザマは2018年4月に「環境重点取組」を公表。温室効果ガス排出量の削減と省エネルギー化の推進、建造物の長寿命化・環境配慮型社会の構築などを中長期の実施項目とし、低炭素戦略を推進しています。

基礎となる、自社の低炭素化と社員の環境教育

安藤ハザマでは環境目的・目標3カ年計画を定め、環境重視経営を推進しています。中でも温暖化防止対策は、建設副産物対策や生物多様性の保全と並ぶ取り組みの柱であり、CO₂削減活動や環境配慮設計などを推進しています。2018年4月の「環境重点取組」の公表を機に、その活動を一層推進します。



実践には社員の環境意識の継続的向上が重要であり、この観点から環境法令検定の認定者の育成を、全社の共通目標として推進しています。2017年度、同検定の「ゴールド(正解率90%以上)」認定者11名のうち安藤ハザマからの認定者は8名に上るなど、環境教育の大きな成果となっています。

未来に託す